

総体としての日本の力を

経歴

平成12年 4月	自治省採用 同 行政局振興課	平成21年 4月	同 厚生部健康課長
平成12年 8月	大阪府総務部財政課	平成22年 4月	同 経営管理部財政課長
平成14年 4月	総務省消防庁総務課	平成24年 4月	総務省自治行政局 選挙部政治資金課課長補佐
平成16年 7月	同 自治税務局市町村税課	平成24年 12月	総務副大臣秘書官
平成17年 7月	米国留学 (ハーバード大学ケネディ行政大学院)	平成25年 10月	総務省自治行政局 地域自立応援課課長補佐
平成19年 7月	富山県商工労働部観光課長	平成26年 4月	現職

Taisuke Sakurai

自治税務局都道府県税課課長補佐 **櫻井 泰典**

税制改正に携わる

3月31日、都道府県税である法人事業税の外形標準課税の拡大が盛り込まれた地方税法の改正法案が成立しました。外形標準課税は、資本や付加価値の大きさを基に負担額を決める税で、応益課税の強化、税収の安定性などの観点から、長期にわたる議論の末、約10年前に資本金1億円超の法人を対象に導入されたものです。この外形標準課税を拡大することにより利益に係る税率が下がることもあり、昨年春からの法人実効税率引下げを見据えた、国・地方を通じた法人税改革の議論の中でも中心的なトピックでした。

国や地方政府の根幹を支える税制は、行政サービスの対価の負担の仕方を決める制度であるため、その決定過程では様々な立場から意見があります。今回も、春の政府税制調査会やその後の税制改正プロセスや国会審議等で様々な議論がありました。法案が成立したときには、担当となってちょうど1年であることを忘れてしまうほど刺激的で濃密な時間が頭をよぎり、大変感慨深いものがありました。

国と地方での経験

十数年前、私が当時の自治省の門をたたいたのは、幅広い分野の仕事に多様な視点から携わることができる点に魅力を感じたからでした。入省してからこれまでを振り返ると、改めて、多岐にわたる仕事をするのができた実感しています。

国では、地方税制のほか、東日本大震災でも救援に大きな役割を果たした緊急消防援助隊の創設や危機管理センターの設置、政治資金規正や政党の設立、そして副大臣の秘書官など、全国の安全を守る仕組みづくりや、国の意思決定システムの根幹をなす制度の運用などに携わることができました。また、医療や交通をはじめとした生活機能を効率的に確保するため、近隣の市町村同士で時には県境を越えて連携し、相互に補完しあう定住自立圏構想の見直しや、都市部の志ある人材が地域に移住し、センスを生かした農産加工物を生み出したり、集いの場のカフェを開店したりと様々な活動を行う地域おこし協力隊の推進など、人口が減少する中、既存の資源を生かして新たな価値を創り、各地域で暮らしを維持するためにはどうするか、様々な好事例や地域の課題に触れながら仕組みを考える機会もありました。

駆け出しの大阪府時代には、予算査定を担当し、限られた財源で行政サービスを維持、向上させるにはどうすべきか、朝まで議論の日々でした。富山県では、マーケティング調査に基づいてPR戦略を考えながら、国内外を飛び回ったり、若手経営者達と様々な仕掛けに取り組んだり、あるいは新型インフルエンザ対応や周産期医療からがん対

策、自殺対策まで幅広く担当したり、県政全体の事業と予算の調整を担当したりと、プレイヤーとしてもマネージャーとしても没頭できるフィールドがありました。目の前の状況をより良くしたいという気持ちと、ここで好事例が生まれれば、それが各地に波及して日本全体をより良くすることにつながるという気持ち、その両方がモチベーションでした。

その時々には苦しいことも多々ありました。しかし、振り返ると心の中には、少しでも世の中を良くしたいという思いを共有する人々と共に、その思いを具現化できる仕事に携わったという達成感と喜び、そして多くの人の強いつながりが残っています。

総体としての日本を考える

国を構成しているのは都市部だけでなく、地方部でもありません。双方が密接に関連しています。人材の輩出や文化の多様性等はもとより、生産額や消費額といった尺度で見ても、いわゆる地方部もイメージよりはるかに大きな部分を占めています。また、行政サービスの提供主体も、国だけでなく地方でもありません。海外で日本の姿を伝えようとしたとき、あるいは地域で行政への素朴な疑問を聞かれたとき、国全体を把握しないと伝えられない、そして、国全体として持てる力を最大限に発揮しなければならないとこれまで以上に強く感じました。

ここまで経験してきた仕事は、日本全体の姿や、国と地方双方の様々な分野の制度や状況を頭に置きながら、全体を良くしようという取り組みでした。世の中は自分の目の前の世界だけではなく、物事は複雑密接に絡んでいる。当たり前のことですが、それを改めて意識できる仕事と人々との出会いが日々あります。

入省時、一部だけの集団ではなく、日本全体の一人一人の幸せにつながるような仕事をするようにと大先輩に言われたことを思い出します。その目標に向け自分自身もまだ奮闘中ですが、思いを共有する皆さんと、共に力を尽くせるのを心待ちにしています。



坂本副大臣（当時）とフランス分権相との会談に同行



経歴

平成13年 4月	総務省採用 同 自治行政局公務員部福利課
平成13年 10月	高知県企画振興都市町村振興課
平成14年 4月	同 総務部財政課
平成15年 4月	厚生労働省老健局介護保険課
平成17年 4月	総務省自治財政局地方債課
平成18年 4月	同 自治財政局財政課
平成19年 4月	岩手県環境生活部資源循環推進課廃棄物対策担当課長
平成20年 4月	同 総合政策部政策推進課政策担当課長
平成21年 4月	同 総務部予算調製課総括課長
平成23年 8月	総務省行政管理局副管理官
平成25年 4月	現職

Hiraku Hachiya

住民に寄り添う行政を目指して

自治財政局調整課課長補佐 **八矢 拓**

霞ヶ関での仕事は、企画・検討と議論、関係者との調整の連続です。私が地方自治分野に関わる者として、どのようなことを考えながら仕事をしているのか、ご紹介します。

制度を作り動かすということ

私は自治財政局調整課の課長補佐として、地方公共団体の財政負担を伴うありとあらゆる分野の制度設計や事業の企画立案・執行方法について、霞ヶ関の様々な省庁から協議・相談を受けたり、地方公共団体の方々から提案や意見をいただいたりしています。

社会に発生する様々な課題は、「こうすれば良い」と迷いなく対処方策がすぐに思いつくものでもありません。担当する制度の経緯や実績を踏まえ、類似制度との整合性も勘案しながら、何が問題なのか、どこに向かえば良いのか、厳しい地方財政の状況を考えても行うべき政策か、頭から湯気が出るぐらい必死になって考えます。

例えば、教育費負担軽減のための新たな措置や国と地方との間の費用負担の考え方、過疎や離島地域での高速通信網整備のための地方の役割、保育所の待機児童解消と少子化対策のための制度の内容や財政措置、大雪による農業用ビニールハウス等の被害対策、国から地方へ権限移譲する事務に関する財源保障の在り方など、一つ一つが住民行政に密接に関わる重要な案件ばかりです。

判断を支える現場感覚

立場の異なる関係者と議論をすることは、非常に難しいものです。共有できるポイントの一つ一つ整理しながら、調整を重ねていきます。何が正しいのか、何が国民にとっての幸せか、自分の価値観と思考を振り絞って説明を行うことになるため、個人の人間性やものの考え方を厳しく問われる局面が多くあります。課題解決のために効果的な制度か、現場で実際に機能する政策か、それが重要です。

そうした政策の立案や目指すべき社会像・価値観の形成の基礎となるのが、地方公共団体での勤務経験です。高知県で勤務した際は、人口減少の中でも、豊富なアイデアと行動力で社会の先を目指す姿に感動し、管理職として岩手県で勤務した際には、ひたむきな県民性で着実に物事を進める職員の方々とともに、震災対応を始めとするさまざまな困難に立ち向かいました。両県での、県を背負って地域振興を実践した経験や、住民の方々を守るために何をすべきかを徹底して議論したこと、そこで知り合った様々な方との出会いは、何事にも代えがたい財産となっています。

地域で生きる住民の方々の仕事や暮らしの実態、悩みに当事者とし

て向き合うとともに、それを第一線で支える方々の目線を実感し、霞ヶ関での政策立案に活かします。自分が正しいと信じる方向に向かって進む中でも、自分が果たして本当に正しいのか、地域に生きる人々の仕事や暮らしに寄り添っているのか、現場での経験が常に私に問いかけます。

新しい環境に飛び込む経験

この「先輩からのメッセージ」を手にかけている皆さんは、「霞ヶ関は大変な仕事と聞くと、自分にできるだろうか」という不安を持っているかもしれません。入省後、見知らぬ土地で働くことになったり、新しい分野の仕事を担当することになったりした際は、期待と不安がなくなることはありません。まるで崖から突き落とされるかのように新しい環境に入り、そこでの自分なりの体の動かし方を習得し、また周囲の人々との関係を築く経験を重ねることにより、人間としての対応力やものの考え方が形成されていきます。知らない世界に飛び込むことを楽しみだと思えるかどうかが大切ですが、あとは自然と身に付いていきます。

結びに

これから社会に羽ばたこうとしている皆さんのフィールドは、仕事だけではなくありません。都道府県や市町村で働いていると、仕事以外にも、同僚の人たちが様々な活動を通して地域に貢献していることに気づくでしょう。良き国家公務員であると同時に、良き地域の一人として、また、良き家庭人として、自分の属する社会に貢献する人々に身近で接することは、自分の人生を豊かにしてくれます。

社会に貢献したい、幅広く、しかも人々の生活の深いところに関わる仕事をしたいと考え、国家公務員を志したみなさん。総務省というフィールドで活躍することを是非考えてみてはいかがでしょうか。



友人たちと岩手山へ登山（筆者後列中央）